

DATA FILE



六方晶系

名前	SMITHSONITE (スミソナイト) / 菱亜鉛鉱
化学組成	ZnCO_3
色	無色、白色、ピンク色、黄色、緑色、青緑色など
光沢	ガラス光沢、真珠光沢
蛍光	ピンク色
条痕	白色
劈開	完全
断面	貝殻状
硬度	4 ~ 4.5
比重	4.35

りょう あ えん こう

菱亜鉛鉱

SMITHSONITE

純粋なものは白色をしているが、コバルトやマンガンを含むものはピンクがかった色、カドミウムを含むものは濃い黄色、銅を含むものは緑色など、少量の不純物によってさまざまな色になる。

銅を含んでいるため、緑色をしている菱亜鉛鉱。ナミビア産。

ガラスや真珠のような光沢を持ち、素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。



酸化した銅や亜鉛鉱床に生成し、厚みのない皮膜状やブドウ状の結晶になることが多い。

結晶をつくるときは湾曲し、凹凸のある表面を持つ菱面体をしている。

共生鉱物に、藍銅鉱、白鉛鉱、方鉛鉱、異極鉱、孔雀石、緑鉛鉱、閃亜鉛鉱などがある。

異極鉱との見分け方

菱亜鉛鉱はケイ酸塩鉱物の異極鉱に似ていることが多いが、両者を見分ける最も簡単な方法は、希塩酸の中に入れてみる。炭酸ガスを出してシューシューと泡立ちながら溶ける菱亜鉛鉱に対し、異極鉱は泡を出さずに溶ける。また、紫外線を当てると、菱亜鉛鉱はピンク色になる特徴がある。

▼ブドウ状をした菱亜鉛鉱の塊。



▲フランスで採れた菱亜鉛鉱。

英名の由来になった人物

長い間、菱亜鉛鉱の英名は「カラミン」であったが、1832年にイギリスの鉱物学者ジェームズ・メシー・スミソン（1754～1829年）を称え、「スミソナイト」と名づけられた。

イギリスの公爵の息子で、鉱物学など科学研究に生涯を捧げたスミソンは、1826年にロンドンのイギリス学士院が自身の研究論文の発表を拒否したことに腹を立て、イギリスに寄付する予定だった遺産を「アメリカのワシントン研究所を設立するための資金にするように」と、遺言を書きかえてしまったという。これによってできたのがスミソニアン研究所で、現在は鉱物や宝石のコレクションを収めたアメリカ自然史博物館をはじめ、多くの財団を含む巨大施設となっている。

リ
菱
亜
鉛
鉱

主な産地

